

新基地 完成見通せず

辺野古側 想定10倍の遅れ

普天間無条件撤去こそ

日本共産党の赤嶺政賢議員は28日の衆院予算委員会で、米軍辺野古新基地建設（沖縄県名護市）について、水深の浅い辺野古側の埋め立て工事でも想定10倍の期間を要し、軟弱地盤が広がる大浦湾側の長期化は必至だとして米軍普天間基地の無条件撤去を求めました。

↓関連の面

発したとして、「計画通り進められると書うなら、具体的な根拠を示すべきだ」と迫りました。

衆院予算委 赤嶺議員が迫る

政府は大浦湾側の軟弱地盤改良工事に伴い、新基地建設の工期を9年3カ月、返還手続きを含めた全体で12年に見直し、起工を1月10日としています。政府の想定では新基地完成と普天間基地返還は2036年1月となり、当初は半年あまり早く見込んでいた計画が、10倍の5年かかっていると指摘。大浦湾側の軟弱地盤は、作業船が施工で甚

る水深70メートルを超える90メートルの地盤改良工事が必要、砂杭を打ち込むための設備が突風や高波で折れ曲がるなどの事故やトラブルが多

発したとして、「計画通り進められると書うなら、具体的な根拠を示すべきだ」と迫りました。

田首相は、「全力で取り組む」としか答えませんでした。2018年12月から始まった辺野古側の埋め立て工事の進捗率をたたいた赤嶺氏は木原稔防衛相は99.5%と明らかにしました。赤嶺氏は、当初は半年あまりで完了するとしていた計画が、10倍の5年かかっていると指摘。大浦湾側の軟弱地盤は、作業船が施工で甚

韓国が2000年代に行った水深70メートルの海底トンネルの地盤改良工事では、砂杭を打ち込むための設備が突風や高波で折れ曲がるなどの事故やトラブルが多



質問する赤嶺政賢議員 28日、衆院予算委